比治山大学
子ども発達教育学科
ニュースレター３号

3 号館 4F ラウンジ

■小学校教員採用試験　45 名が合格！

速報

令和 4 年度の教員採用試験（小学校）の速報です。
子ども発達教育学科の 4 年生は、例年同様、教員採用試験を受けております。今年度はのべ 45 名の合格者が出ました。皆様の温かいご声援に、心より感謝申し上げます。

受験地	最終合格人数
広島県・市	23 名
北九州市	12 名
鳥取県	4 名
島根県	2 名
山口県	1 名
高知県	1 名
東京都	1 名
北海道	1 名

■後期スタート・実習で学ぶ学生たち

幼稚園教諭・保育士を志望する 3 年生は、8 月に保育所・こども園、9 月に幼稚園実習を行いました。コロナ禍中、受け入れて頂いた保育所・園には大変感謝申し上げます。
小学校教諭を志望する学生たちの実習は、10 月から進んでいます。大学の授業で学んだ内容を実践の場でどれだけ活かせるか、一人ひとりの学びが問われます。本学では実習指導教員と教職センター職員が一丸となってバックアップをしています。

■入試日程が進んでいます

総合型選抜が始まりました。A 日程では将来像の獲得につながる子どもサポーター検定を使用して、基礎的な事項を確認したあと、面接で「理想の保育者・教師」について尋ねました。緊張した面持ちの高校生たちから、自分たちなりに精一杯考えた回答が聞かれました。進路指導の先生方の熱心なご指導が、彼ら・彼女らを勇気づけて入試の場に送られたのだと感じ入りました。子ども発達教育学科の学びは、入学前から社会に出るための実践知を意識して組み立てられています。
今後も学校推薦型や一般選抜など様々な入試が予定されています。子ども発達教育学科は小規模ですが、教員と学生の距離が近いことが強みです。ぜひ多くの高校生に受験していただきたいと思います。

HIJIYAMA

■小学校教員・幼稚園教諭・保育士を目指す学生の声

実習やボランティアという生の経験を通して本当に様々な子どもたちがいるということが分かりました。そこで学んだことから「誰も置いていかない教師」になりたいと考えています。子どもたちは勉強も遊びも給食もすべてそれぞれのペースがありました。とはいえ学校生活の中では時間を守って生活することも大切なので、単に遅い子に合わせるというのではなく、日々の指導の中での習慣づけや助け合いを大切にしながら足並みがそろうようにして「みんなで学んでいく教室」をつくっていきたいと考えています。

実習指導の授業では、改めて教職を目指すうえでの使命や責任について考えることができました。自分ではまだ自分のことを学生だと感じていても、いざ教壇に立てば子どもたちにとっては先生である、というお話がとても印象深く残っています。実習の際もそのことを頭において緊張感をもって望むことができました。

齋藤愛海（比治山女子高等学校出身）

私は、実習経験を通して「褒める保育士」になりたいと思っている。「怒鳴る」「叱る」という行為がない実習園があった。その園は、子どもが「気づく」ための支援をしたり「〇〇してほしい」という保育士の願いを伝えたりしていた。そうすることで「怒鳴る」「叱る」という行為は減り、とても穏やかな保育をされていた。そのような環境で育っていく子どもは、友達同士で助け合ったり、認め合ったりできる子どもばかりでした。それを見た私は「褒める保育士」になりたいと考えるようになった。

実習を終えて、保育の答えは一つではないことを学んだ。色々な保育に触れて自分がしたい保育を学ぶことが大切だと考えた。次の実習では、もっと積極的に保育に関わり、学びを深めていきたい。

光田心愛（呉市立呉高等学校出身）

■高校生のみなさんへ

「小学校・幼稚園・保育園・こども園の先生になる」「将来、子ども関連の仕事がしたい」…。そんな夢をもっている高校生に、子ども発達教育学科のことを是非知って頂きたいと願っています。比治山大学ホームページをぜひご覧下さい。

HIJIYAMA